

# からばす



Calebasse

企画/編集/発行 特定非営利活動法人  
カラ=西アフリカ農村自立協力会

デザイン:DeeplusDesigns

Issue Number

# 22

第22号(2009年11月1日発行) CONTENTS

- p1 愛知万博が縁で始まるマリ共和国との交流  
甚目寺町国際交流協会 会長 大角 佳生
- p2 この頃のマリ  
村上 一枝
- p3 現地活動報告
  - 識字教室 (p.3)
  - 野菜栽培と自然保護・保健衛生 (p.4~5)
  - 女性適正技術活動(p.6)
- p6 お洒落な暮らし  
内野 香美
- p7 生徒さんたちと……
- p8 国内活動

## 愛知万博が縁で始まるマリ共和国との交流

大角 佳生

2005年愛知万博が開催された時に、愛知県は一国一市町村フレンドシップ事業を実施し、万博に出展する海外の国々との交流の機会を県内の全市町村に提供しました。私たちの甚目寺町は、マリ共和国との組み合わせが決まり、それが縁でマリ共和国との交流が始まりました。

万博開催中のマリ共和国ナショナルデーでは、町民が招かれ参加し、あるいは甚目寺町にマリ国立民族舞踊団を招き公演と町民との交流もしました。また、駐日マリ共和国大使やマリ人を度々招き、国際交流の会や食文化などを理解し、交流を積み重ねてきました。万博開催前から、ジェンベなど伝統音楽や理解を深める講演会などを開催したり、万博後は、マリ共和国館からバンバラ族の貴重な親子彫像、仮面彫刻、壁砂絵等が町へ寄贈され、交流の証となっています。

また、2006年から町民が集まり国際交流推進ミーティングを開き、国際交流・多文化共生の視点から地域の将来について学習会を開きました。その過程で国際交流協会の設立の必要性を感じ、2007年からは協会の設立準備にあたり、2008年に国際交流協会を設立しました。その間にカラの村上代表にも来て頂き、カラの国際支援活動とマリの人々の生活の実態について詳しく知る機会がありました。その結果、できることから無理をせず行動を起こす機運が生まれてきましたので、先ず多くの町民がマリへの関心と理解深めるため、誰もが取り組みやすい「マリ共和国・甚目寺町写真交流展」を実施し、写真を通して日常生活を互いが知る機会を作りました。甚目寺からは500点の応募があり、マリからは300点の作品が寄せられ、駐日マリ共和国大使と大使館員などを招き、多くの町民が参加し、写真展記念の「国際交流の集い」も開き交流を深めました。

また、子どもの頃からの国際理解、異文化体験の観点からアフリカ太鼓音楽講座「ジェンベ音楽講座」を開き、ジェンベ楽団が結成され、各地で活躍しています。来年3月より3町が合併し新しく「あま市」となりますが、外国人への日本語教室、マリの井戸掘り支援など様々な形で国際理解・支援の環境作りをしながら、地域と世界における多文化共生社会を目指して活動を継続して行きたいと思っています。



甚目寺町国際交流協会  
会長 大角 佳生



## この頃のマリ

村上 一枝

2009年の雨季は前年同様、5月から始まりました。しかし、多少の降雨があった後は全く雨が降らず、そのためにトウジンヒエの播種する時を決めることが出来ず、村の人たちには収穫量を心配する日が続いていました。

私がマリへ出張していた7・8月にかけても同様で、人々との挨拶も、話題もそのことばかりでした。多くの村のうち比較的雨が降った村では播種していましたが、そうでない村の方が多くありました。今年も凶作が予想され家族を養う為に出稼ぎに出て行く若者が多いだろうと、スタッフが話をしていました。しかし8月中旬からはものすごい豪雨があり、バマコ事務局からは連日e-mailで東京事務局に連絡が入り、スタッフの住宅の一部が崩壊し、彼らの子供たちがコナ村のカラ事務所へ避難してくる騒ぎでした。

この豪雨は、スタッフの住宅だけではなく、村の多くの人たちにも被害を及ぼしたようです。現地視察の折に、今年度事業枠内の識字教室の建設現場を見て、まだ完成していない教室がありましたので、それらも崩壊しているのではないかと心配していましたが、持ちこたえたようでした。

10月上旬もまだ雨が時々降り、村への道路が湖の様になりカラの車は村へ行くことが出来ませんし、必要な資材を運ぶことが出来なく、カチョラ小学校の建設もまだ始まっていません。

雨が降っても降らなくても大きな問題が生じて、村の人たちの生活は非常に苦勞です。このように人々の生活が自然環境の変化によって、大きく左右されるのを目にしていると、私たちの支援は本当に小さく、吹き消されていくようにも感じることがあります。

しかし、どんなに過酷な生活でも生まれた村を「オレの村だから」といって誇り、懸命に生活を築きあげようとする人たちの姿は、私たちが楽なことや豊かさを求めてさまようことへの反省を促している様にも思います。



湖のようになった道路

### カニカ小学校机製作資金のご寄付に感謝致します。

この度、会員の方々始め、多くの団体の方からご支援いただきました、カニカ村小学校の机製作資金について、おかげさまで机の製作を80台依頼いたしましたことをご報告いたします。現在は材料を整え、村にそれら運び、バマコから職人がカニカ村へ行き、村で机を完成させて学校へ村民が運ぶことになっております。直接床の上で勉強をしていた生徒たちは、どんなにか嬉しい事と思っております。すべてが完成した状況を、次回の機関紙上でご覧戴くつもりでおります。

みなさまの、暖かいお気持ちに感謝申し上げます。

## 現地活動報告

2009年4月～2009年10月

### 識字教室

今年の雨季は長く続いているようですので、例年なら10月から始まる識字教室の開校が、遅れると思います。

新設の識字教室は今年度は、ンペグ村、バラバン村、バシブグ村、ファラコブグー村の4カケ村への建設ですが、農作業が優先ですから、10月現在、未だ完全に建設が終了していません。このように識字建設が途中になっていた為に、豪雨で建設中の壁が落ちたり、強風でトタン屋根が飛んでいないかと心配していましたが、被害は少なかったようで、安心しています。

例年のように、今年度も10月上旬から、識字教師育成研修会が開催されました。13会場で40日間の研修です。今回は村の教師たちからの、開催に向けての強い要請もありますが、カラのスタッフのスマイラや彼のアシスタントでもあるシャカ・ベリテの熱心な要請もありました。

彼らは、多くの村から教師たちが出席し易い方法、学び易い方法を考えて、場所や研修日数を決めました。この研修会で指導する人たちは13会場でひとりずつ、13人を必要とします。上述のシャカベリテもその一人ですが、他の指導員は過去にカラの指導を受けて教師の認定を取った村出身の人たちです。長い間、1年に1回、もしくは2回の識字教師育成研修会を16年間試行錯誤しながら継続してきた成果です。

過去には、研修会に参加するには、自分の知識を得る為に出席と言う意識ではなく、研修会から招待されたから行くのである、だから手当てや食事、遠い村から来る人たちには(特に女性は赤ん坊を連れて来る)カラの宿舎に泊まるので、期間中の3食、セッケンなどのすべての品まで用意するのが通常でした。それに、ノートやボールペンもです。

カラは手当こそ出せませんが、3食付きが参加者には魅力で、それを賄うのは非常に大変でした。その為、ある時からカラ(村上)はこれを完全廃止宣言をしました。これにはカラのスタッフたちの猛反対を受けて困りましたが、「とにかく、何も出さない。みんなの子供が小学校で勉強する為には、親は毎月お金を出しているのではないか、カラは何も村の人へ請求しないで教えているのではないか」と主張し妥協しませんでした。スタッフからは、何も出さなければ誰も来やしない、ノートかペンは出してくれ」と言われましたが、「ダメ、ダメ」で通しました。結局「とにかく、村へ研修会の通知をしない、但し何もカラは提供しない」と、言い通達させましたら、大勢ではありませんでした。その後この宣言を通してありますが、現在は村から要請が来る様になりました。村の人たちは、私たちが考えている以上に、意識が高く正しい判断を持って生活しています。参加者の中には、昼にトウジンヒエを持参するから、午後も授業を続けることを希望している人もいます。

今回の識字教師育成研修会への参加者は合計303人です。



識字教師研修会

## 野菜栽培と自然保護

過去に造成した植林地の樹木も本当に大きくなりました。

現在はローカル種の植栽を奨励していますから、ニエレやドゥグラ、カイセドラ、等をスタッフのバンバ・ケイタと彼のアシスタントスタッフが村の人たちと苗木を作り、植栽しています。

これらには囲いも水遣りもしませんから、枯れる苗木が多く、その都度補植をしています。

過去の植林造成地内には、村の人たちが有効に利用し、協働で作物を播種しています。収穫された作物は村の人たちの共有財産となるものです。

表は、各村の植林地有効利用状況です。

●ゲンドウ村森林造成 【ゴマ】	●コニナ村造成地 【トウジンヒエ・ササゲ豆】
●カロ村造成地 【ササゲ豆】	●コンバ村造成地 【ササゲ豆】

表のように、それぞれの村で、人々は彼らの考えで作物を播種し、全村民に役立てようとしています。技術指導の要請があれば、カラは手伝いますが、その他については、カラが云々言うことはなく、村の自立の現れと思っています。表に書いた村以外にも、他の多くの村でこの現象が見られます。

森林パトロール隊の活動は各村で継続され、毎日彼らは目を光らせています。カラの活動地域に隣接した村には薪商人が入り、多くの木が伐採されて路上に並んでいますが、カラの活動地域では、このような状況は見られなくなりました。

雨季の野菜栽培は、メロン(日本のマクワウリ)、オクラ、ジャカトウが主で、これら、殆どは自由栽培(自分で種を購入しています)で自家消費がメインです。メロンは、あまり甘くありませんが、ジュースで子供のオヤツに最適で、日本円で3ヶ10円で市場でも良く売れています。

既に3年目を迎えたタマネギ保存庫では、前期に収穫され保存されていたタマネギも、その殆どが搬出されて保存庫内は空になりました。野菜の少ない雨期には自家消費用にして、また多少の販売もされて収入が主婦に入ります。このタマネギ保存庫は主婦にとっても人気があります。村では結婚式が多くありますが、その時の料理には多量のタマネギが必要ですから、購入するには費用がかかる為に、必要な時に保存庫から出して利用できるのはとても経済的、と評判です。

10月になって、そろそろ次期耕作期に向けて各野菜園の女性委員会では会議を行い、栽培野菜の種類や会費の滞納者のチェック、栽培区画の清掃など、多くの問題が合理的に決められています。これらの事業も、そろそろカラの手を離れる時期に来ているのではないかと、スタッフは話しています。

## 保健衛生

現在、病気予防や保健衛生知識普及の活動は、昨年からはまった女性を主体としたK会(ケネヤムソーの会・村の女性を主体とした健康改善事業)の活動になっています。

第1ステップとして、カラのスタッフであるアワ・ケイタが既に保健コーディネーターの認証を受けましたので、彼女の監督・指導のもとに、このK会メンバー(各村の5人組)を育成して、彼女たちが同じ村の

仲間に教える(啓発・指導)、つまり自分の村の人たちには、自分たちの力で啓発教育をする、というシステムです。村のK会メンバーへの指導には、春から雨季前までの殆どの時間を費やしました。

7月にはK会のメンバー自体が村民へ指導出来るほどに知識が増えて、学び覚えた知識を活用して村民へのマラリア予防活動も行いました。

K会メンバー5人は、その多くが文字を読めませんし書くことも出来ません。村では、数人の女性たちをグループとして何度も、いわゆるひざを交えてのおしゃべりによって、色々な知識を啓発します。おしゃべりはアフリカ女性にも、日本女性にも共通した得意技です。

女性たちは、今までは多くの人の前で話をする習慣がなく、せいぜい3、4人の前でしか話をする事ができませんが、非常に上手に説明していました。この事業に熱く燃えているアワは、数人にしか話ができないのは、問題だ! と悩んでいましたが、彼女たちの慣れを期待する事にしました。

K会が発足し、活動をするようになってから、村の公衆トイレは彼女たちによって清掃され、清潔に保たれるようになりました。手洗いも普及しました。台所用具も清潔に保たれる様になりました。村の人たちの家の台所やトイレ、沐浴場所から流れる汚水の排出場所には、穴を掘りそこにやわらかい石が満たされ吸水する様にしましたので、今までのグチャグチャとした不潔な状況が改善されました。

事業はまだ初期の段階でもあり、事業途中で農繁期に入った為、今回は6ヶ村のK会への組織・育成しか出来ませんでした。この事業は既に31ヶ村へ通達してあり、すべての村から賛同されています。これは、女性を主体とする活動ですが、これを支える大きな力は男性も一緒になって活動を手伝っていることです。順次他の村へ継続して行き、3年間計画の事業です。

2008年9月に、バマコの診療所へ1年間の助産師育成研修のために送り出した2人の助産師育成研修が終了しました。特にカチョラ村から選ばれた女性は非常に優秀で評判でした。学校へ行って教育を受けていませんが、素晴らしい才能を持っている女性です。このような人たちがまだまだ地域には潜んでいるのではないかと考えています。助産師の育成にバマコへ1年間出かけるために家族とも離れ、費用もかかるのでその一部を負担する村もカラも大変です。今後は今までに育成した4人の助産師とアワを指導員にして、既に建設した産院を使用して新しい助産師を育成することを考えています。この為にはフランス語は必要ありません。人格的に尊敬される女性が望まれます、このような新しい試みで助産師を増やし、安全な出産を期待して、この保健事業を継続しています。



K会メンバーによる村の女性への啓発活動



栄養についての指導教材



## 女性適正技術活動

人気の女性適正技術活動は、そろそろカラの手を離れてもいいかも知れません。現在は、コナ、モバ、ママブグ、カニカ、ドレブグ、ベレニコ、ヌムブグ、コンド村の8ヶ所の女性センターと、建設中のカニカ村女性センターがあります。

それらのすべての女性センターには、器材も揃っていますので時間さえあれば女性たちは自由に活動できます。結婚式のための衣服の染色や嫁入りの準備のために、刺繍したカーテンやシーツ、枕カバーの縫製、水がめのカバー(これも刺繍しています)が販売用に作られています。出産祝いの赤ん坊の衣類も盛んに作られています。特に、街道から離れ、市場からも遠い奥まったママブグ村やドレブグ村では販売収入が多く、委員会の収入だけでなく個人収入も他村より多く、女性はお金持ちになってきました。

春にベレニコ村の女性センターで盗難事件が発生して、カラが購入した手回しミシンが盗難にあいました。この直後にベレニコ村の女性たちからカラへ新しいミシンを購入してくれ、と言う希望がありました。カラはこれを受け付けませんでした。先刻の報告では、女性たちが相談してミシンを購入することになったそうです。この様に器材にも責任を持たせ、委員会自身で考え、女性たちと相談して問題事が生じた時も自らが解決するように指導しています。

この村では、女性が手に技術を覚えたので、出稼ぎ者が以前よりも非常に減少しました。日本人から見ると、本当にささやかな技術の習得だと思えますが、ここでは大きな成果となり、生活を変えて行くような状況になっています。

## お洒落な暮らし

内野 香美

ケネヤムソーの会への研修を展開する中で、幾つか嬉しい驚きに遭遇したことがあります。それは、彼女達に対し座学で衛生(個人・公衆)、栄養改善、病気対策(マラリア・エイズ・下痢症など)、お産関係などの講義がなされる他に、実は、参加者のお家を皆で訪問し、日常生活の中で“衛生”ということがどのような状態になっているのかを拝見させていただいた時に起こりました。

CARAスタッフのマダムケイタ(アワ・ケイタ)がその時になって、「ではお家を訪問しましょう!」と声をかけますので、参加者はそうそう訪問受け入れの準備ができていません。もちろん、家族の方に承諾を得ますが、かなり突然に総勢15～20名もの研修参加者がお家を訪問することになります。それも、普段の来客ならば庭先に椅子を出し、お茶を飲みながら楽しいのですが、研修の一環ですので訪問先は、トイレ、フロ場、台所、ゴミ捨て場と普段お客様をお招きしないプライベートな場所が公開されてしまいます。

多分、訪問を受けるお母さん達はハラハラドキドキなんだと思いますが、清潔にするとはこういうことかと感心するおフロ場がありました。小石を敷き詰め排水の仕組みもできており、とてもリラックスして汗を流すことができそうで、思わず私も水浴びしたい!と思いました。また、料理の準備に欠かせない杵は使用後、よく地べたにゴロンと転がっているのですが、それらをとても上手に片付けているお家がありました。

そして、参加者の女性達が憧れの声を上げながら賑やかに覗き込む場所があります。それは、なんと寝室なのです。地元で入手できる粘土を丁寧に壁や床に塗り、外部の熱い空気とは別世界の冷やりとした空間を作っています。もちろん掃除もパーフェクト。更にそこには、お洒落な飾り棚が同じ粘土で施され、ちょっと日本の鏝絵技術を彷彿とさせます。

清潔で工夫されたお洒落な生活空間、アフリカ女性の見えない所への気遣い、ステキです。



上手な杵の片付け方

近年、仙台は何かとカラとご縁がある地域です。今回は2つの学校についてご報告を致します。

### ●仙台市立七郷中学校3年生事務所訪問(5月19日)

七郷中学校では、総合学習の一環として国際理解・福祉教育を取り上げており、修学旅行時の訪問学習で、今野勇希くん、加藤和馬くん、大島貴行くん、堀内史也くん、松木大典くんの5名が、事務所を来訪しました。

ウナギの寝床のように(?)奥に細長いカラの事務所は、5人もの育ち盛りの男の子が入るとぎゅうぎゅうになり、さぞかし狭い思いをしたのではないかと思います。生徒の皆さんは非常に静かに、時折、質問を交えながら話を聞いていました。後日事務所に届いた感想文を抜粋して掲載します。

「僕は以前マリという国を全く知りませんでした。NPOについても知りませんでした。今回の訪問でマリやNPOの取り組みについてわかったように思います。これからは少しでも他国に役立つ取り組みをしていきたいと思います」

「アフリカというと砂漠が多く、道も整備されていないイメージだけでしたが、アフリカの人は自分なりの生き方をしているということがわかりました。マリ共和国の現状を知りとても勉強になりました」

「世界の現状、状況を詳しく知ることができました。これを機にもっと世界の現状、状況について詳しく知りたと思いました」

「僕はマリ共和国という国があることを知りませんでした。でもわかりやすく教えてもらったので、色々わかりました」

「僕は今までNPOという組織がどんな活動をしているかほとんどわかりませんでした。実際に話を聞いたら色々興味深い内容でとても勉強になりました」



七郷中学の生徒さんと

### ●せんだい地球フェスタ2009に【CARA=Help=仙台】が出演(9月19日)

仙台市の宮城学院は、123年前に米国人のボランティア活動で開校しました。現在も「心を込めて手作りしたもので世界を助け、世界と気持ちをつなげる」をバザーの目標にご支援して下さい。また生徒さんたちだけではなく、宮城学院を退職された先生方、OB・OGの皆様によって2008年にCARAの活動支援の為に設立されたのが【CARA=Help=仙台】です。

宮城学院中高等学校とカラとのご縁は2004年に始まり、当時の高校2年生が文化祭で行うバザーの収益金の寄付先を検討していた際に、英語の教科書に載っていた代表・村上とCARAの記事を思い出し、講演依頼をいただいたのがきっかけで、2009年まで6年間に渡ってバザーの収益金を寄付していただき、活動地のンジャマブグ村には識字教室を建設し、毎年識字教育の支援をして下さっています。

イベント当日は試験の為、生徒さんにはお会いできませんでしたが、先生3人にお手伝いいただき、先の宮城学院の文化祭向けに生徒さんが作成した、マリ共和国やCARAを説明した展示物をお借りして壁に貼らせていただき、来客からわかりやすいと非常に好評でした(私たちスタッフが説明するとどうしても小難しくなりがちなので...勉強になりました)。展示物は、水について等テーマを決めて調べたものもありましたが、スペースが狭く、すべて貼ることができなかったのが残念です。この宮城学院の生徒さんたちの支援活動は、既にNHKや地方の新聞で報道され、評価されています。他の人の苦難を自分の事として思いやる気持ちが育まれている生徒さんたち一人一人が、私たちの力になっています。

## 国内活動

- 4/29 東京女子大学【園遊会バザー】での活動紹介 東京女子大学
- 4/29 【第6回かながわく国際交流まつり】 横浜市水再生センター
- 5/16-17 【アフリカン・フェスタ2009 in横浜】に参加・活動紹介 横浜市・赤レンガ倉庫イベント広場
- 5/19 仙台市立七郷中学校生徒さん5名 修学旅行時・都内研修として事務所訪問
- 6/28 【東京白梅会】での活動紹介・講演 中野サンプラザ
- 8/15 【甚目寺ワールドミュージックフェスティバル】に参加・活動紹介 愛知・甚目寺町
- 9/19 【せんだい地球フェスタ 2009】に参加・活動紹介 仙台市・仙台国際センター
- 9/27 【MISHOP WORLD 2009】に参加・活動紹介 井の頭公園・西園
- 10/3-4 【グローバルフェスタJAPAN 2009】に参加・活動紹介 日比谷公園
- 10/15 【国際ソロプチミスト東京-銀座】にて卓話 ホテルオークラ
- 10/27 【日本中近東アフリカ婦人会主催 第15回チャリティーバザー】に参加 ロイヤルパークホテル

## 2009年11月以降の予定

- 11/8 【第28回 むさしの青空市】に参加・活動紹介 武蔵野市民公園
- 11/26 カラ主催 チャリティーコンサート【かけはし2009】 銀座・十字屋
- 11/28 日本女子大学【2009年度桜楓会バザー】に参加・活動紹介 日本女子大学
- 12/18 龍谷大学にて講演 京都府・龍谷大学

カ ラ ・ チ ャ リ テ ィ ー コ ン サ ー ト

## 「かけはし2009 ～シャンソンとラテンの午後～」

今年もマリ共和国の女性と子どもたちの幸せと健康を祈り、原田康子さんによるコンサートを行います。  
 曲目は当日のお楽しみ！ 詳しくは事務局までお問い合わせください。

日時:2009年11月26日(木) 開演:14:00(13:30開場)

場所:銀座十字屋ホール 東京都中央区銀座3丁目 松屋デパート向い

整理券:3,800円 アフリカの小物が当たるお楽しみくじ付

からばす(Calebasse)-第22号- 2009年11月1日発行

特定非営利活動法人 カラ=西アフリカ農村自立協力会

<http://ongcara.org/>

東京事務局

〒180-0002 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-1-6-102

Tel:0422-29-7640 Fax:0422-29-7688

E-mail: centre@ongcara.org

バマコ事務局

BP E367 BAMAKO MALI

Tel:223-2020-9096 Fax:223-2020-3589

からばす22号の発行は「武蔵野市NPO補助金交付事業」の助成を受けています